

第7回能代市総合計画市民協働会議

日 時 平成24年11月22日（木）
午後7時
場 所 能代市文化会館 中ホール

会 議 概 要

1 開 会

2 委員長あいさつ

河井委員長から、会議の開催にあたってあいさつがありました。

3 協 議

全体協議

①提言書類について

事務局から、配付資料及び会の大まかな流れについて説明がありました。

提言書類について、事務局から説明があり、前回の全体会や運営グループ会議を経た提言事項及び参考事項（案）について、各班で最終確認を行いました。

全体協議では1点について変更の提案があり、この変更内容を反映し、成案とすることで了承されました。

②提言文について

事務局から、提言文について説明があり、成案とすることで了承されました。

③提言書類の最終調整について

事務局から、市長への提言書類に委員名簿を添付し、提言事項及び参考事項を一式として提出することの説明がありました。

全体協議では特に質疑はなく、説明のとおり了承されました。

4 市長への提案

河井委員長が提案文を読み上げ、齊藤市長に提案書類を手渡しました。

5 市長あいさつ

（要旨）

委員の皆様には4カ月間に及ぶ会議に貴重な時間を割いて出席していただき、心から御礼申し上げます。

3項目にわたる提言は、皆様のご議論はもっと多岐に渡る、内容の濃いものであったと思われる。そういった意味でも、ご提言いただいた3項目は能代市政の最も大きな課題であると思う。

まず、一つ目の健康に関する提言について、健康は市民の最大の願いであり、これを行政としてどのように担っていくかといった意味で、健康推進に向けた条例化を考えている。能代市は保健センターを直営で持っているほか、大きな病院が3つあり、これらの連携を図りながら、早期発見・早期治療に努めるとともに、未病対策も心がけていかなければならないと考えている。食べることや運動すること、能代の自然環境などを加味しながら、健康の増進につながるよう努力していきたい。こうしたことが、医療福祉費のフラット化にもつながり、財政の改革にもうまく影響していくと考えている。

二つ目はこれまでも市民協働会議から意見をいただいている若者が働く場の確

保、産業の創出であります。少子高齢化や人口減少が進む中、若い人たちがこのふるさとに残りたいと思っても働く場がない、というのが現実。また、経済も確かに低迷しておりますが、こうした状況を嘆くだけでなく、今が常態であると考え、ここから景気回復に向けて努力をしていかなければならない。このため、企業誘致や起業への支援に努める、特に、能代の負の財産だと思っていた強い風が、風力発電という追い風に変わってきた。これを活かした再生可能エネルギーで業を興していけるような活動に繋げていきたい。

そして言うまでもなく、農業は能代の基幹産業であり、農業が元気なくして地域の活性化はないと思っている。提言にもあるように、6次産業化や二次加工も手がけていかなければならないということ、しっかりと胸に刻んでいきたい。

もう一つは、私は今の農業のあり方というものを今一度見つめ直す必要があるのではないかと考えている。今確立されている組織等の中で生活されている方は、当然に急激な変化は望まれていないと思うが、農業が新たな就職口として、そして儲かる産業として生まれ変わることができないか、そういったことも考えていかなければならない。

耕作放棄地を活用して、自然農法とか無農薬栽培などでブランド化を図ることができないかと考えている。無農薬で作った野菜や果物は、腐ることなく枯れるのみで、切っても酸化せず、こういった高品質で安全なものは、ある意味で健康というキーワードにも関連する。当たり前ものを当たり前としてブランド化するという方法もある。

これまでは作ったものを売るという発想であったが、欲しいものを作るといった、契約栽培などの視点も必要。本当に農業をやりたい方にやっていただき、契約栽培をするために営業努力も一生懸命やっていく。今までは作るだけだった農業を「売る農業」に変えていく必要もあると考えている。

こうした視点で、是非とも農業に元気を取り戻していきたいと考えています。

3つ目は子育て。人口ピラミッドを見ても若い世代が少なく、子どもを産む家庭が少なくなっているから結婚する方も少なくなっている、ますます子どもが少なくなる。どうやって子育てを軽減しながら子どもを産んでもらうというインセンティブを働かせるか、いろいろな政策があると思うが、一つは、やはり収入を多くすることだろうと思う。私はよく言うのですが、「Double income Two kids」つまり、二人で働いて収入を多くして、二人の子どもを産もう。そのために必要なことが働く場の確保。現在核家族といわれる中で、能代の美德のひとつをあげるとすれば、三世同居であると考えている。子育ての負担をお父さん、お母さんに少しでも手伝っていただいて、そのかわり、空いた時間をお母さんが働くことによって収入も増える。当然にお父さんの収入がまず増えなければいけないが、子育て世代の収入を増やす方法を考えなければならぬ。こういった少子化対策にも取り組んでいかなければいけないと思っている。

皆様方からは、本当に熱意溢れるご提言をいただきました。自分が置かれている立場の、その責任の重要性をさらに認識して、皆様方のご提言を行政の中に活かせるように、しっかり頑張っていきたいと思っているので、どうかこれからも皆様方のお力をお貸しいただきたいと思う。

行政のみでは町を発展させることはできません。市民の皆さんとの協働が必ずや必要であります。とりわけ皆様はまちづくりのリーダーであります。感謝と思いやりに溢れる我々のふるさとを創造していくために、そしてこの町で生まれ育ってよかったと思えるようなまちをつくるために、是非とも皆様のお力をお貸しいただきたいと思う。

重ねて、遅い時間から幾度となく会議を開いていただき、ご提言をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

6 市長との意見交換

市長のあいさつに健康推進条例があったが、医療だけでなくスポーツも含めた形で健康づくりの政策を進めていただきたいとの意見があり、市長から、健康のまちづくりには是非スポーツを取り入れたいと考えている。現在バス停に距離表示を入れておりこれをウォーキングコースにも配置したいと考えているほか、公園の遊具を撤去した部分に年輩の方たちが運動できるような器具を整備するなど、健康にスポーツを取り入れていきたいとの説明がありました。

また、能代市史が今回の中世で終了するとのことだが、能代の木都の始まりは明治に井坂直幹をはじめとした働きの中で木材の街として発展してきた歴史があるため、これも含めていただきたいが、すぐにはできないと思う。このため、市史の編纂を通じて収集された歴史資料等が散逸することの無いように努めていただきたいとの意見があり、市長から、現在市史の編纂はなかなか前に進められる状況にならないことから、いったん現在の計画の所で止めることとしているが、今後歴史を積み重ねていけば、明治以降についても触れなければならないときが来ると思うため、歴史資料等についても、散逸しないような管理をしなければならないと思っているとの説明がありました。

また、能代は安心して暮らせる場所と感じており、そういった部分も観光に結びつけられればと思うが、能代駅に降り立つ方からは、大変残念な感想が聞かれる。駅前市の顔であるということ念頭に置いていただき、駅前を含めたまちづくりに活かしていただきたいとの意見があり、市長から、駅前が能代の顔であることはそのとおりで、駅前から畠町、柳町、通町等、どのように動線を作って、どこに人を集めるかということとは大きな課題であると捉えている。また、もう一つの課題として、北高跡地をどのように地域振興に繋げていくか、ということを検討している。こうしたことも含め、駅前を蘇らせる努力をしていきたいとの説明がありました。

また、少子化に伴い、不妊治療がクローズアップされてきているが、保険が利かないため多額の負担が強いられている。このことについて市の独自の支援策は考えられているかとの質問があり、市長から、不妊治療に対する独自支援については、現在調査を行っており、どういった段階からどういった助成の仕方が良いかも含め、できるだけ早期に子どもを産みたいという方たちに少しでも手助けになるようなことを実現させたいと考えているとの説明がありました。

また、雇用の問題について、「“わ”のまち能代」の1つに「環」があり、政策の大綱の中にも環境を核とした産業創出や雇用確保といった文言も入っているが、5年を経過した段階でも目立った動きが無く、どのような状況にあってどのような方向に向かっているのか、再生可能エネルギーに関することも含め、具体的なものが市民には分からないといった意見があり、市長から、現在リサイクルポートの活用がうまくいっていない状況にあるが、これからはエネルギーと環境、食料の時代で、これは能代に揃っている。県北地域のリサイクルの実力は、概ね北九州と同程度であり、環境のキーワードを外すことなくまちづくりに活かしていきたいと考えている。

それから再生可能エネルギーについては、今すぐに雇用が生まれるというものではないが、既存の会社にまずは少しでも仕事が増えるようにしていきたい。新規に風力発電を建てても部品工場を作るという発想には結びつかないため、能代の業者をメンテナンスで使っていただくメーカーに建てていただく必要があると考えており、能代に会社ができない場合でも現地法人を作ってください、メンテナンスは全て地元でやってくださいということをお願いしている。現在業界の方々も含め勉強会をやっており、すぐ雇用につながるわけではないが、こうしたことを通じて少しでも能代に仕事を増やしていこうとしている。

もう一つは、将来的な夢だが、北海道の日本海側から新潟あたりまで陸上と洋上で2,000基の風力発電があれば、耐用年数は20年なので、年間100基ずつ更新することができることから、メンテナンス等で先頭を走っていれば部品工場

を作る可能性も出てくる。このため、まずは洋上を含めて風力発電を100基を目標に、5年、10年スパンで実現していきたいと考えているとの説明がありました。

また、市民協働会議が無償で多くの方が集まって、本気で議論をしているように、能代にとってこうしたマンパワーは欠かせないものであるため、多方面にわたって市民の意見を聞き、良いものは取り入れるといった機会を多くしていただきたいとの意見があり、市長から、今我々にとって一番大切なのは、市民の皆様方と能代の課題を共有して、その課題に向けて自分達ができることを、まず自分がやるんだと言うところから始めることだと思う。市民一人ひとりがそういう思いを持って取り組んでいくことで回りも動いていき、行政も一緒になって汗をかくことができると思うので、マンパワーの活用は必要なことだと思う。同時に、市職員はこれだけがんばることができるというのを見せなければならない。これは両輪でなければならないと思うので、そういうつもりで努力していきたいとの説明がありました。

7 その他

事務局から、交通費の手続きについて説明がありました。

河井委員長と中村副委員長から、会議の終了を迎えるに当たり、それぞれあいさつがありました。

(中村副委員長あいさつ要旨)

4カ月間、皆さんのおかげで市長へ提言書を手渡すことができた。

私は4回目の市民協働会議となるが、いつも新鮮な気持ちで参加しているが、初めて参加される方に優しい運営であったかというところ、ご迷惑をお掛けした部分もあると思う。

今回は後期基本計画の策定という作業をやってきたが、実は、この先行政で実施計画を作って、皆様からお話いただいたことがどれだけ反映されているかという楽しみが残っている。また、それを評価するための市民協働会議が開かれると思っているため、今回の策定、次回の評価というふうに参加していただけるとさらに楽しみが増えると思うので、今回苦しかったと思われた方も、次回は楽しみだと思って、また参加していただきたいと、運営を担当して思っている。

最後になるが、皆様のおかげで今日まで来られたことに感謝申し上げますとともに、またお会いしたいと思う。

(河井委員長あいさつ要旨)

委員の皆様を始め、アドバイザー、市職員の皆様に、市民協働会議への参加、協力に対し感謝申し上げます。初めての参加で、しかも委員長という大役に心配は尽きなかったが、皆様のご協力でここまで来れた。

皆様は各分野で活躍されており、これからも能代のまちづくりに力を貸していただきたいと思う。

これまで暑い中、寒い中、長時間にわたりご苦労さまでした。

(アドバイザーから今後のアドバイス等)

委員の皆様、長い間ご苦労様でした。市民協働会議の委員としての仕事はここでいったん終わるということになると思う。

5年前に計画を策定する時から、ロジックモデルというやり方でこの計画は作られてきた。初めての方や、よくわからなかったという方もいると思うが、能代市民の幸せという大きな目標に向かって、誰がどんなことをすれば良いのかということ、ロジックという積み木を積み重ねてきた。今日はその積み木が綺麗に積み上がった状態で市長にお見せすることができた段階。

これからは、皆様が市民として、職員は行政として、この積み木の一つひとつの中身、これには具体的な仕事が詰まっているので、これを一つひとつ誠意を持って進めていただきたいと思います。

先ほど実施計画や評価の話が出ていたが、提言書にある「担い手・役割」の一つひとつが積み木に当たるため、これを皆様の力で本当に中身のあるものとして積み上げていただきたい。そして、それが本当にうまくいっているのかどうかを、途中でチェックしながら、本当に市民の幸せが実現するまちづくりに役立てていただきたい。

最初の計画を策定する際に関わっていた前理事長がよく言っていたが、行く先々で「能代は凄い」ということを繰り返していた。市民と市職員がこれだけ中に入っていくという、本気の度合いを私も感じる事ができた。今後、ほかの街でお手伝いする機会には、「能代は凄い」ということを言いたいと思う。

8 閉 会